

資料3 教科書教材(光村)における指示語の頻度

学年	合計	%	内容
1年	62	2.8	近称・中称
2年	186	8.6	遠称・不定称、これ・あれ
3年	306	13.9	どれなど32種類について教科書教材を調査したその一部
4年	401	18.2	分。
5年	658	29.8	
6年	591	26.7	
総計	2,207		

働きや使い方を整理することができ
る。

オ 本時の仮説、文例の中で指示示す

内容を指導し、練習作文でくり返し

練習させることによって、指示語の

働きや使い方が定着し、また、正し

い文章、ひきしまった文章をかける

ようになってくる。今までの学習事

項は、プリントに書きこむことによ

り整理させる。

2 カ 指導過程(資料4)

(1) 検証と考察

検証の観点、仮説の有効性は、検証授業の事前事後テストの正答率だけではなく、児童作文を分析し指示語の数や頻度なども参考にする。有効度指数は、八十以上を有効とし、変容があったと認めることにする。

(2) 授業の考察、四年では、「こそあどことば」の指導が「単元設定されている。したがって、指示語のものとことば」の指導が「単元設定されてもよく定着もよいが、文脈の中ににおける指示示す内容の理解がわるい

イ 事前事後テストの正答率は、資料

指示語の意味別頻度と割合(%)

意味	指 示 語	計	%
もの	これ あれ	489	22.2
方向	こちら そちら そちらら あちら どちら	33	1.5
場所	ここ そこ あすこ どこ	177	8.0
の 人(単)	こいつ そいつ あいつ といつ	8	0.4
形容	こんな そんな あんな どんな	299	13.5
指定	この あの その どの	993	45.0
様子	こう ああ そう どう	208	9.4
合 計		2,207	

資料4 検証授業学習指導案(指導過程)

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点
把 握	1. 本時のねらいをつかむ 【指示語のはたらきや使い方について学習する】	5	・指示語は「その」のように物の名前やことばを言わない代わりに指示すことばが指示語であることをおさえる。 到達基準①指示語はものや事柄を指示する役目をもっている。	把 握	1. 前時の復習をする。 2. 本時のめあてを確認する。 【指示語(こそあどことば)の働きや使い方にについて整理をする。】	5	・こそあどことばの働きについて簡単に説明する。 ・めあてをしっかりとつかせる。
	2. 教科書P52のカブトガニに使われている指示語にしるしをつける 【気付く】	25	①この「それ」「こんな」「ぞれ」「その」など指摘できたか机頭巡視をして評価する。 ②指示語のはたらきや使い方の基本を指導する。 ・「これは」指示する物が話し手の近いところにあることを理解させる。 ・「この」のつく指示語はほかにどんなものがあるか考えさせる 到達基準③「これ」「こっち」「ここ」「こんな」「この」などの「この」のつく指示語は指示する物が話し手に近いところにあることがわかりうことができる。 ③先生はわたしにこう言いました。「中学生」になったらいちだんと身体が大きくなったね。わたしはとてもうれしくなりました。「こう」は何を指していますか。 ④それは話し手のそばにあることを理解させる。 ・「その」のつく指示語のなまをあげさせる。		3. 指示語のはたらきや使い方について考える。 【気付く】 ①ものやことがらを指示する指示語にはどんなものがあるだろうか。 ・「それ」を使って練習作文をする。 ②方角や方向を指示する指示語にはどんなものがあるか。 (略) ④きみのもっている本はずいぶんりっぱですね。それはなんという本ですか。 到達基準⑦略 ・「こっち」「どちら」など	18	・板書 ・それぞれの指示語はカードで示し能率を上げる。 ・「これ」「それ」「あれ」「どれ」「この」「その」「どの」など。 例 きみのもっている本はずいぶんりっぱですね。それはなんという本ですか。
	3. 指示語のはたらきや使い方について考える ①ここに消しゴムが落ちていました。□ はだれの消しゴムですか。	25	②カブトガニは実に大きなひみつをもっています。□はカブトガニが二億年ものむかしからほとんど形を変えることもなく生きつづけてきた動物だということです。(カブトガニより)		6. 練習作文をする。 指示語を使ってひきしまった文にしよう。 到達基準①指示語はもはや車両を指示する役目をもっている。	10	・中学生になったらいちだんと身体が大きくなったね。 到達基準①指示語はもはや車両を指示する役目をもっている。
解 決	④これ「そこ」「あすこ」「どんな」などをこそあどことばの「どれ」「どちら」「いー」「どんな」としていたり、 「こう」「それら」については変容があつたと認められる。	45	④これ「そこ」「あすこ」「どんな」などをこそあどことばの「どれ」「どちら」「いー」「どんな」としていたり、 「こう」「それら」については変容があつたと認められる。				